

厚生労働科学研究費補助金

地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な

介入手法の確立に資する研究

(20BA0201)

令和2年度 総括・分担研究報告書

代表研究者・磯博康

令和4(2022)年1月

# 目次

## I. 総括研究報告

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究-----1  
磯博康

## II. 分担研究報告

### 1. 日本における Global Health Diplomacy の強みと課題に関する分析-----5

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター 国際協力局 局長
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	須貝 眞彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

### 2. Global Health Diplomacy Workshop-----8

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
-------	------	--

中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
梅田 珠実	国立国際医療研究センター 国際協力局 局長
明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
須貝 真彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

(資料) Global Health Diplomacy Workshop (2020) Course Overview

### 3. Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021)-----28

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
研究協力者	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員

(資料) Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021) : Course Schedule Overview

# I 章

## 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業）  
総括研究報告書

「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な  
介入手法の確立に資する研究」（20BA0201）

研究代表者 磯 博康 国立国際医療研究センター 国際医療協力局  
グローバルヘルス政策研究センター センター長

研究要旨

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システム強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、我が国の国際保健外交を牽引する国内関係者や専門家の経験が積み重ねられてきている。しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、国際保健外交及び実務にて経験豊富な研究者及び実務者連携を図りながら、World Health Organization（世界保健機関）主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と若手や中堅実務者向けの効果的な教育プログラムの確立を目的としている。

今年度は、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集するために、日本の介入が効果的な分野（強み）と介入しにくい分野（課題）を実証的に分析した。また、これらの分析結果を元に現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムを検討し、国際保健外交における実践経験者を日本政府や関係機関、タイ政府、ブラジル政府、WHO から講師として招き、国際保健外交の基礎知識及び能力強化のワークショップ（Global Health Diplomacy Workshop）をオンライン開催し、教育プログラムの開発と改善を行なった。さらに、繰り越し事業として、国際会議での発言や交渉の模擬演習を対面で行った。

今年度実施した研究から得られた知見は今後の教材開発や教育プログラム策定に活かし、我が国が国際的な議論に戦略的に介入して日本の立場を主張し、国益及び国際的な平和を守る人材の育成に貢献するものである。

研究代表者：

磯 博康 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センターセンター長

研究分担者：

中谷 比呂樹 国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センターセンター長

梅田 珠実 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター客員研究員

明石 秀親 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長

勝間 靖 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター研究科長

細澤 麻里子 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター主任研究員

石塚 彩 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター客員研究員

須貝 眞彩 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター客員研究員

坂元 晴香 慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

研究協力者：

齋藤 英子 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター上級研究員

ミット以来、一貫して保健システム強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、2019年日本は、国連において初めて開催された UHC ハイレベル会合にて、我が国が国際保健外交を牽引する姿勢を国際社会に示した。また、同年日本は G20 議長国を務め、UHC、高齢化への対応、健康危機・Antimicrobial Resistance (薬剤耐性) といった国際保健の重要施策の方向性について合意を形成したほか、Tokyo International Conference on African Development においてもそのプレゼンスを発揮するなど、グローバルヘルス外交における国内関係者や専門家の経験を積み重ねてきた。

しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、World Health Organization (世界保健機関) 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と効果的な教育プログラムの確立を目的とする。

具体的には、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議から、日本の介入が効果的な分野(強み)と介入しにくい分野(課題)を実証的に分析するとともに、各国のアプローチとの比較を行う(初年度)。その結果を踏まえ、WHO 会議において各国の対立が不可避なテーマ等についてケース・スタディーを行い、日本の立場を効果的に主張するための手法を開発する(2年

A. 研究目的

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サ

目)。さらに、諸外国のグローバルヘルス外交にかかる政策研究機関の動向や、それらが有する研修プログラムの情報を収集・分析し、国際保健人材育成のためのグローバルヘルス外交教材を開発し、研修プログラムを確立する（3年目）。

本研究の特色・独創的な点は、長年にわたり公衆衛生分野で国内外の人材育成をリードし、我が国の国際保健の政策研究拠点を担う研究代表者が、WHO 執行理事会議長の経験者をはじめ、実際に国際会議での交渉経験をもつ分担研究者をそろえ、国際会議のリアルワールドで現実に行われている様々な介入や交渉の情報を入手し活用しつつ、戦略的な分析と実践的な手法開発を行うことである。

## B. 研究方法

本研究は3年計画で、WHO 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発する。その際、厚生労働省、外務省、国際協力機構、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげる。

上記目的を視野に令和2年度（初年度）は以下の研究を実施する。

WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集し、日本の介入が効果的な分野（強み）と介入しにくい分野（課題）を実証的に分析する。また、各国の立場の変化やその背景となる政策に

ついても情報収集し、我が国との比較を行う。これらの情報を取り込んだ研修プログラムを、国立国際医療研究センターが過去3年間毎年実施しているグローバルヘルス外交ワークショップ（Global Health Diplomacy Workshop）等において実施し、効果について評価を行い次回の改善につなげる。ワークショップには、タイ王国の様に先駆的、組織的に国際会議への介入、若手の人材育成を推進している国から行政官・研究者を招いて研修内容のレベルアップを図る。

### （倫理面への配慮）

グローバルヘルス外交ワークショップ参加者には教材開発の一環として実施されていることを同意取得の上で研修に参加してもらう。本研究における効果判定は、すべて匿名化データを扱うため、倫理審査の対象外である。

## C. 研究結果

複雑化するグローバルヘルス外交の歴史的経緯を踏まえた上で、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集し、日本の介入を効果的に行う上でのガイドラインや教科書の作成につなげるため、2020年5月11日より全20回にわたり、グローバルヘルス外交に関する国際的な成書である Thomas E. Novotny, Ilona Kickbusch, Michaela Told 著「21st Century Global Health Diplomacy」の輪読会を行った。第1～12章の各章に対して、それぞれの担当者がまとめたプレゼンテーションと議論を行い、議事録形式でまとめた。内容は、外交と健康との関わり、歴史、ガバナンスとアクター、外交手段、安全保

障、軍隊の健康、人道支援、交渉の成功要因、国家と国際協調、将来展望等である。参加者は研究班のメンバーに加えて、グローバルヘルス外交の実務者、行政官および研究者から募り、各議題について参加者の経験や意見交換をし、日本のグローバルヘルス外交の特徴、課題、将来の展望を抽出した。得られた知見は今後の教材開発に活かして、教育プログラムの強化を図っていく。

令和2年度に開催したワークショップ（新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催）では、輪読会での議論を踏まえて取り扱う課題を設定し、日本のみならず、WHO、タイ、ブラジルから該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答を依頼した。講義の内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、知的財産と公衆衛生の間の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに、国際会議場での実践的発言演習をと取り入れた研修を行った。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、アカデミア、シンクタンク、非政府団体（NGO）、産業界などから、国際会議の経験のある、あるいは、参加予定はあるが国際会議の経験が少ない官民の中堅・若手実務者32名が集まった。加えて、将来グローバルヘルス外交を担う医学部、公衆衛生大学院の学生など33名がオブザーバーとして参加した。

また、令和3年10月には、繰り越し事業として令和2年度のワークショップ参加者13名を対象に対面での国際会議での発言や交渉の模擬演習を行い、WHOなどの国際会議経験者からのフィードバックを得るワ

ークショップを開催した。参加者からのフィードバックからは、いずれのワークショップも国際会議における暗黙知を共有するにあたり有用な方法であることが確認された。次年度以降、今年度の輪読会やワークショップ開催で明らかとなった課題を踏まえて、教材開発及び教育プログラムの改善と工夫を図っていく。

#### D. 健康危険情報

該当なし

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他

該当なし

#### 参考資料

該当なし

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業）  
分担研究報告書

日本における Global Health Diplomacy の強みと課題に関する分析

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター 国際協力局 局長
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	須貝 眞彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

研究要旨

近年の急速にグローバル化し、複雑化している保健課題に対応するためには、多国間が連携するグローバルヘルス外交の重要性が今までになく高まっている。一方で、今日のグローバルヘルス外交は学際横断的領域となっており、また、関連するアクターの多様化によりその役割も変遷し複雑化している。本研究では、「21st century Global Health Diplomacy」を題材とし、輪読会の形式をとりながら、21世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯を理解した上で、日本の強みと課題について分析し、日本がグローバルヘルス外交においてプレゼンスを確立し、また国際的な合意形成を達成していくための戦略的方策への示唆を得ることを目的とした。分析の結果、日本のグローバルヘルス外交の強みは組織的にグローバルヘルス外交を重要課題と位置づけていることや、これまで築き上げてきた実績により他国から強い信頼があること、そして超高齢化社会として日本が直面している課題の教訓を他国へ共有・応用が求められていることがあげられる。一方、課題としては、多様化するアクターとの連携や役割分担の検討、支援内容についての再考、グローバルヘルス外交の効果に関する科学的エビデンスの創出と政策決定に反映する手段の確立、これらを担う人材の育成、そして、グローバルヘルス外交の効果および重要性について国民の理解を得られるようなコミュニケーションの在り方についての検討が必要であることが明らかとなった。今回抽出された日本の強みと課題については今後さらに検討を加えた上で教本化を通して人材育成や関係者間の共通認識醸成のための基盤として役立てていく。

## A. 研究目的

近年のグローバル化の促進に伴い、保健課題も COVID-19 感染症の国際的な蔓延に代表されるように急速にグローバル化した。この中で国際的な保健課題を解決するための多国間連携、すなわちグローバルヘルス外交の重要性がこれまでになく高まっている。

日本においては、これまでの ODA を中心とする二国間、多国間支援に加えて、G8 洞爺湖サミット以来、保健システムの強化や Universal Health Coverage (UHC) の主流化を主軸としたグローバルヘルス外交を展開してきた。2019 年には国連初の UHC ハイレベル会合で中心的役割を果たし、国際保健外交を牽引する姿勢を国際社会に示し、同年の G20 議長国として UHC、超高齢化への対応、健康危機・薬剤耐性といった国際保健分野の重要施策の方向性について合意形成を行ってきた。

一方で、今日のグローバルヘルス外交は、保健領域だけでなく、国際政治や経済学、法学、管理学などが密接に関わる学際的な領域であり、また、グローバルヘルス外交のアクターもこれまでの国家や国際機関主体から、Non-government Organization や民間企業など多様化が進んでいる。

このようにグローバルヘルス外交が急速に拡大、複雑化する中で、日本がグローバルヘルス外交においてプレゼンスを確立し、また国際的な合意形成を達成するためには、21 世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯を理解した上で、日本の強みと課題について把握し戦略的に対策を検討する必要がある。

そのため、本研究では、21 世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯や課題が網羅された教科書である「21st century Global Health Diplomacy」を題材として、日本のグローバルヘルス外交の現状、強みと課題について分析することを目的とした。

## B. 研究方法

上述の「21st century Global Health Diplomacy, Thomas E Novotny, Ilona Kichbusch et al. World Scientific. 2013」

を題材として、輪読会の形式で意見交換を行った。輪読会の参加対象者は、グローバルヘルス外交に関わる実務家、行政官（厚生労働省や外務省）そしてアカデミアの若手からベテランまでを対象とした。議論を踏まえて日本におけるグローバルヘルス外交の強みと課題について分析した。本研究は、人を対象とした研究ではないことから倫理審査の対象外である。

## C. 研究結果

2020 年 5 月から全 20 回に渡り輪読会を開催し、21 世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯を踏まえて、日本におけるグローバルヘルス外交の強みと課題について抽出した。

その結果、日本のグローバルヘルス外交の強みとしては、以下が抽出された。

- 日本がグローバルヘルス外交を外交政策の中での重要な課題と位置づけ、取り扱う省庁内組織があること。また、政府内で国内政策と外交政策の整合性を図るとする土壌があること。
- 二国間、多国間援助、国際機関やハイレベル会合の議長国の役割などを通して日本がこれまでグローバルヘルス外交において築き上げてきた実績、日本の技術や国への信頼があること。
- 日本が国内で直面している課題（高齢化、非感染性疾患への対応など）は、今後他国においても疾病負荷が増加することが予想され、日本の経験と技術が有用となりえること。

また、課題としては以下があがった。

- 多様化するアクター間での有効な支援の在り方について再検討が必要であること。このアクターには国家や国際機関だけでなく、企業や Non-governmental organization などの非国家アクターや官民連携も含まれる。また、アクターが多様化し国際機関の役割が変遷している中で、日本のリーダーシップをどのように発揮し貢献していくか、戦略的な検

討が必要であること。

- 実際の支援を検討する上では、国際基準に基づいた対外支援、相手国の需要や世界のトレンドにあった支援内容、また資金提供だけに留まらない新たな価値の創造について検討が必要であること。
- 国内政策と世界的な議論とが一致しない例では、国際的な立場を明示しにくく、プレゼンスを高めにくいこと。
- グローバルヘルス外交の効果を定量・定性評価し、科学的エビデンスに基づいた戦略的な政策立案に役立てるとともに、その効果に関係者や国民に明示し、グローバルヘルス外交が国益に適うことについて理解を得ていくことが必要であること。
- 外交政策と国際保健政策の目的を一致させ、多様な利害関係者間における合意形成のためには、分野を超えたスキルやインフラ、そしてそれを担う人材育成が必要であること。また、戦略的にこれらの人材を国際機関の場に送り込むことが必要であること。

今後は、今回抽出された日本のグローバルヘルス外交における強みと課題についてさらに検討を加え、教本化を通して人材育成や関係者間の共通認識醸成のための基盤として役立てていく予定である。

## 結論

21st century Global Health Diplomacy を題材に、21 世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯を踏まえて日本のグローバルヘルス外交の課題と強みを抽出した。健康課題がグローバル化し、またアクターが多様化し、その役割も変遷する中で、日本のグローバルヘルス外交の課題としては、多様化するアクターとの連携、変遷するアクターの中で日本のリーダーシップを発揮するための戦略的な方策を立てる必要性、実際の支援内容についての再考、グローバルヘルス外交の効果に関する科学的エビデンスの創出と政策決定に反映する手段の確立、これらを担う人材の育成、そして、グローバルヘルス外交の効果および重要性について国民の理解を得られるようなコミュニケーションの在り方についての検討が必要と考えられた。

## 謝辞

本研究を遂行するにあたり、輪読会の発表資

料の作成などご協力いただいた以下の方々に深謝いたします。木村仁美（国立国際医療研究センター 国際医療協力局 グローバルヘルス政策センター 客員研究員）、小林由佳（同、特任研究員）、佐田みずき（同、特任研究員）、白井こころ（同、主任研究員）、立森照久（同、主任研究員）、清原宏之（国立国際医療研究センター 国際医療協力局）。

## D. 健康機器情報

該当なし

## E. 研究発表

### 1. 論文発表

該当なし

### 2. 学会発表

該当なし

## F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター 国際協力局 局長
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	須貝 眞彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

研究要旨

グローバルヘルスの今日課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が求められている。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画、実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

ワークショップは主要グローバルヘルス課題や主要機関のガバナンスに関する知識及び交渉術や発言方法に関する基礎的スキルを取得することを目的に開催された。大半の参加者から知識とスキルの向上が確認され、好評を得られたが、初めてオンラインで開催されたワークショップであったことにより課題も明らかになった。次年度以降は、オンライン開催の限界も考慮しながら、参加者間及び参加者と講師間のやりとりがよりインターラクティブとなる工夫を行う計画である。

## A. 研究目的

グローバルヘルスの今日課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題及び日本含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画、実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

## B. 研究方法

### 1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健課題の議論に戦略的に介入して日本の立場を有効的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

対象は30名ほどの厚生労働省、外務省、アカデミア、民間企業、非政府団体(NGO)職員等グローバルヘルスに関わる若手から中堅職員とする。また関連領域の大学院生および大学生を含む30名ほどのオブザーバーも聴講者として参加する。

ワークショップは新型コロナウイルス感染症感染

のリスク軽減を考慮し、オンラインで開催する。

ワークショップは以下7点を目標に、国際保健機関、ブラジル政府、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いてパブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成する。

- (1) 国際的機関(国連・国連の専門機関・パートナーシップ)におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる技法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を滋養する。
- (7) 国際会議の暗黙知を共有する。

### 2. ワークショップの効果測定

ワークショップでは、参加者を対象とした事前・事後知識検査および終了時評価アンケート調査を実施し、スキル(能力・知識)の習得状況、研修カリキュラムの形成と評価に対する調査を行う。知識検査およびアンケートは、すべて任意回答、匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、有用な教材・研修プログラムの開発の策定を行う。

(倫理面への配慮)

ワークショップ参加者には教材開発の一環として実施されていることを同意取得の上で研修に参加してもらう。本研究における効果判定は、すべて匿名化データを扱うため、倫理審査の対象外であった。

## C. 研究結果

令和2年12月11日-12日の二日間にわたり、オンラインでワークショップを開催した（プログラム詳細は参考資料「Global Health Diplomacy Workshop (2020) Course Overview (ワークショップ概要)」を参照）。参加者は33名、オブザーバーは32名であった。

国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの歴史の講義の後、世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義が実施された。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディの講義、及びパートナーシップに関する講義が実施された。

さらに、実践的なスキル習得のために模擬WHA形式でパブリック・スピーキング・介入の演習を実施した。具体的には、実際に使用されたWHAの議題と研究班が用意した対処方針を元に、参加者に日本代表の視点を想定して発言案を準備してきてもらい、発言案を発表・練習した。参加者一人一人の発言内容に対しては、講師陣より効果的な発言内容及び発表方法のフィードバックを提供した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査(表2)では、大半の参加者から好評を得られた。特に発言の演習(模擬WHA)、交渉術や世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義は参加者の実務にスキルと知識を直結できる内容で、大いに参考となるという意見が多く見られた。(表4)

また、事前・事後に実施した知識検査では、ワークショップ終了後に参加者の国際保健主要課題及び国際保健会議の会議準備プロセスやルールに対する知識が深まったことが確認取れた。(表6)

## 考察

本ワークショップの参加者は、若手から中堅職員のうち、国際保健分野の知識または実務経験のある人に限定した。しかし、一部の過去事例に関する講義など複雑な国際保健課題に関する講義内容が中上級者向けの内容となっており、参加者の知識・技術レベルと講義内容が合致しなかった例も見受けられた。このような場合には、日本語でも質疑応答できる時間をワークショップ内に設けたが、次年度以降の教育プログラムを開発する際には、講義内容及び参加者の知識・技術レベルが一致する様工夫する必要がある。また、可能な限り、複雑な事案に関する講義内容は日本語で解説を加える、または、質疑応答の時間を設ける工夫を実施していくことが望ましいと判断された。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでのワークショップ実施を試みた。当センターでは過去3年間に及んで同様のワークショップを対面で実施してきた実績があったものの、模擬WHAや複雑な保健議題の講義をオンラインで実施するには、オンライン開催の限界も考慮しながら、参加者間及び参加者と講師間のやりとりがよりインタラクティブなるような工夫が必要であった。参加者からの終了時評価アンケート調査においても、同様の意見が多く見られた(表5)。本ワークショップのような集中的な研修は対面で実施することが望ましいが、コロナ禍で次年度以降もオンラインで実施し、より効果的な教育プログラムにするには、オンライン向けにプログラムの一部再考が必要となる。

D. 健康危険情報  
該当なし

E. 研究発表  
1. 論文発表  
該当なし

2. 学会発表  
該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Workshop (2020)  
Course Overview (ワークショップ概要)

(<http://www.ighp.ncgm.go.jp/events/list/GHDWSCourseOverview2020.pdf>)

表1：参加者属性（任意回答アンケート）

		Participants		Observers	
		n=29	(%)	n=11	(%)
Age range	20-29	6	(20.7)	3	(27.3)
	30-39	14	(48.3)	3	(27.3)
	40-49	6	(20.7)	1	(9.1)
	50-59	3	(10.3)	3	(27.3)
	60 and over	0	(0.0)	1	(9.1)
Sex	Male	9	(31.0)	6	(54.5)
	Female	20	(69.0)	5	(45.5)
Nationality	Japan	29	(100.0)	10	(90.9)
	Other	0	(0.0)	1	(9.1)
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	8	(27.6)	3	(27.3)
	No experience	21	(72.4)	8	(72.7)

注 アンケート回答率：66.7%

表2：各セッション満足度（%）

	Participants (n=29)						Observers (n=11)					
	Did not participate	Poor	Fair	Satisfactory	Very Good	Excellent	Did not participate	Poor	Fair	Satisfactory	Very Good	Excellent
Session 1-1: Overview of global health diplomacy	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	20 (69.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	4 (36.4)
Session 1-2: WHO and its role in global health governance	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	24 (82.8)	2 (18.2)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	7 (63.6)
Session 1-3: Preparing for WHA and drafting of interventions	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	19 (65.5)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	5 (45.5)
Session 1-4: Mocked up intervention (role play exercise)	2 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (13.8)	10 (34.5)	13 (44.8)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	5 (45.5)	4 (36.4)
Session 2-1: Introduction to negotiations	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.4)	8 (27.6)	19 (65.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	8 (72.7)
Session 2-2: Real life negotiations 1: UHC	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	1 (3.4)	10 (34.5)	17 (58.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	5 (45.5)
Session 2-3: Real life negotiations 2: Access to Medicine	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	4 (13.8)	11 (37.9)	13 (44.8)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	5 (45.5)
Session 2-4: WHO partnerships, network and alliances	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (10.3)	12 (41.4)	14 (48.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	6 (54.5)
Session 2-5: Interactive Q&A	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	11 (37.9)	13 (44.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	4 (36.4)	5 (45.5)

注 アンケート回答率：66.7%

表 3 : ワークショップ全体評価 (%)

Items	Participants (n=29)					Observers (n=11)				
	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Clear learning objectives	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	10 (34.5)	17 (58.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	4 (36.4)	6 (54.5)
Organized and well planned	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	15 (51.7)	12 (41.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	1 (9.1)	8 (72.7)
Matched expectations	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (10.3)	16 (55.2)	10 (34.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	5 (45.5)	5 (45.5)
Appropriate workload	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	19 (65.5)	9 (31.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	3 (27.3)	6 (54.5)
Fully engaging	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (34.5)	14 (48.3)	5 (17.2)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	3 (27.3)	5 (45.5)
Effective resource persons	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	20 (69.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	9 (81.8)
Clear presentations	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (48.3)	15 (51.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	9 (81.8)
Resource persons were stimulating	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	9 (31.0)	19 (65.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	10 (90.9)
Satisfaction on Q&A sessions	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	15 (51.7)	12 (41.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	8 (72.7)
Helpful Secretariat	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	12 (41.4)	16 (55.2)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)
Ample time for distribution of materials	0 (0.0)	1 (3.4)	2 (6.9)	18 (62.1)	8 (27.6)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	4 (36.4)	6 (54.5)
Sufficient length of Workshop	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	14 (48.3)	10 (34.5)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	5 (45.5)
Convenience of weekend	0 (0.0)	4 (13.8)	2 (6.9)	11 (37.9)	12 (41.4)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	6 (54.5)

注 アンケート回答率：66.7%

表4：ワークショップの良かった点（自由記載回答）

Q: What aspects of this workshop were most useful or valuable to you?	
	WHO and its role in global health governance: My knowledge was grey and never had a chance to learn about it, but the presentation made it clear.
	Negotiations: Useful skills.
	学生時代から国際保健分野と関わりたいと思っておりましたが、現在の仕事では全く触れることはなく、今後のキャリアの寄せ方について勉強したいと考え参加しました。国際課の仕事や国際機関の仕組みが理解でき、具体的なイメージが湧きました。
	普段、なかなかうかがい知ることができない、国際機関の内情について、垣間見ることができたことです。
	ビジネス・社会生活における基本事項が、やはり大切であると確認できました。（挨拶をする、コミュニケーションを怠らない、感謝を述べる、アクティブリスナーである等）
	COVID 渦においては、SNS 等の力も借りて、コミュニケーションの維持・メンテナンスを如何にしていけるかも重要となることが分かりました。
	どのセッションも非常に沢山の学びを得ることができました。中でも <b>Intervention</b> や <b>Negotiation</b> の講義・演習は実務とスキルに直結する内容で、これから自分自身、練習や経験を積んで研鑽していきたいと思いました。
	国際会議に臨むうえでの事前準備や、対処方針の作成、発言する際のマナー、コツ等、実践的なアドバイスを複数の先生の視点で教えていただいたこと。
	最前線にいる方のお話を聞くことができた点
	内容がほぼ当方の業務内容であり背景知識があるからかもしれませんが、NiloさんとMattaさんのレクチャーなどは特に、日頃の業務内容の背景をより時系列に沿って説明していただき、たくさんあるパートナーシップの詳細な説明など、タイムリーに業務に生かせる内容でありがたかったです。（ただ、背景知識がない方にはわからなかっただろうと思います。）坂元先生のレクチャーも2021/1のEB148の案を考える際に活かせる内容でした。
	Mocked up interventionは大変有意義でした。発言の際は大変緊張しましたが、その準備の過程も含めていい勉強になりました。
	どの講義も大変役立つものでしたが1日目の講義を生かしたワークが印象に残りました。ご提案として3点あります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークは2日目等にできると、講義を生かしたインターベンションができたかなと思います。</li> <li>2. 平日が業務で忙しかったのは言い訳にしかありませんが、日曜日だと土曜日に学んだことを生かしながら実践できたかなと思います。まったく国際会議等の経験がなかったので、どういうインターベンションステートメントを書けばいいのか他の方を参考にしていたので。</li> <li>3. 皆さんどうしても日本代表のインターベンションを選ぶと思いますので、示してくださった日本のインターベンションは例示とし、事前に各参加者に仮想で国を割り当てる、もしくは参加者が自分で日本やリソースパーソン以外の国を選ぶといいのではないかと思います。学生の参加するGlobal Model UNという全世界からの学生がUNでの会議を自分の国とは関係ない国の代表としてシュミレーションする会議があるので、そういったことをすると、事前に少しその国のことを調べたりという手間はありますが、色々なステイトメントポイントがでてきて、リソースパーソンの方からもどのように発言をデリバリーするかということだけでなく、テクニカルなアドバイスにもつながるのではないかと思います。</li> </ol>
	私の場合は、実務とワークショップが重なっていたので、来年の総会などに向けてここで習ったことを参考にさせて頂き、次回の業務がもっと理解できた状態で回せるようになると感じました。
	実際の交渉の舞台裏のお話や、交渉術のお話は大変面白かったです。

	<p>全ての講義が <b>intellectually stimulating</b> でしたが、とりわけ、1日目のグローバルヘルスガバナンスでの WHO の立ち位置、理事会・総会関連の膨大な資料の中の読み方（地球の歩き方ならぬ「WHA の歩き方」と言えるでしょうか）が、現在の仕事に直結する内容で非常に役立つ内容でした。実務のご経験豊富な先生方のコメントは、一言一言が重要でした。そして、総会での発言の実技演習とフィードバックは実に貴重な機会でした。</p>
	<p>省庁で勤務していることから、実務的な観点で特に勉強になりました。特に中谷先生の講義で、膨大な文書をよむポイントや、またその他の先生方の講義を含め、国の意見をどのように組み立てていくのか、どのように発言を組み立てるのか等、実際に現場の経験豊富な方々から教えていただいたのがとても貴重でした。</p>
	<p>第一線の現役官僚の皆さまに非常に実務的かつ臨場感のあるご講義をいただき、大変貴重な機会となりました。</p>
	<p><b>Private sector</b> から参加させていただきましたが、政府機関、MLO の方の動き方、決議事項が採択されるまでの過程など、参加しなければわからなかったことを知ることができた点が収穫でした。</p>
	<p>教育プログラムとしては、ストラクチャーが大変しっかりしており、リソースパーソンの多さも含め、こんなゴージャスな PG が毎年実施されていることに驚きました。</p>
	<p>今回 <b>diplomacy</b> 用の作り立てではありましたが、個人のスキルという点では、企業の求める姿とも一致する部分も多いと感じました。</p>
	<p>過去に何度か WHA に <b>Non State Actor</b> として参加し、<b>Statement</b> を読む機会がありました。<b>Statement</b> を準備をする際、今回のように包括的なレクチャーなどを受けたことがなく、経験のある参加者のアドバイスをもとに手取り足取り指導してもらってなんとかこなした感じだったので、今回アウトラインを一からきちんと学ぶことができ、非常に勉強になりました。また裏で行われている <b>Negotiation</b> の実際も知ることができて、とても興味深かったです。</p>
	<p>タイの方が、外国である日本人の若手養成に一生懸命取り組んでくださり、感銘を受けました。</p>
	<p>WHO での議論の手続き、方法について全く知識をもっていませんでしたが、それに関するイメージをつかむことができました。行政もしくは WHO で仕事をしたいという学生に以前よりも具体的に説明することができます。</p>
	<p><b>All the lecturers have rich experience in the field of Global Health Diplomacy, so every piece of the information was very hands-on, pragmatic, and precious for me.</b></p>

表 5 : 改善が求められる点 (自由記載回答)

Q: How would you improve this workshop?	
	平日の夜は仕事で事前課題に取り組む時間がなかったため、Mocked Up Intervention に向けて文書を読みきちんと準備をするためにも、週末を挟んだ一週間前には事前課題を送付いただけますと大変助かります。
	事前準備のご案内は、遅くても 1 週間前までに頂けると大変助かります。
	配布資料、特に講師からの事前に読んでおく資料 (Reading) について、もう少し早くお知らせいただきましたら幸いです。
	予習の時間を確保するのが困難でした。
	可能であれば、講義の資料をもう少し事前に共有していただければ、印刷する時間があり、メモ取りがしやすかったと思います。
	EB の Mocked Up Intervention Session において、resource person の方から、良い例を実践していただく機会をいただくと、より参考になったかもしれません。
	これまで、諸外国が行うウェビナーを多数参加・閲覧してまいりましたが、チャットボックスがまったく流れない (質問が多数飛んでこない) というのは、日本のあるあるだと思いました。登壇者の方に申し訳なく思いますので、仕込みの質問の準備は、2-3 つ必要ではないでしょうか。
	もう少し、事前課題の連絡が早ければ良かったかと思いました。 また事前課題について、すでに対処方針が明記されている中で、どのように発表することが求められているか (単純に訳せば良いのか、アレンジを加えるべきなのか、どのようなアレンジを加えるべきか)、事前の段階にいただいた資料だけではわかりにくく感じました。 当日の午前中の講義や、他の慣れていそうな方の発表を聞く中で理解できました。 1 日目にありました参加者がインターベンションを行うセッションですが、事前配布資料中にありました「代表団が東京出発前に受領した対処方針」は、あくまでも「見本」として、明記するとよかったかと思います。確かにあれは EB 146 の発言案和文の実物ですが、参加者の方にはこれを要すれば参考にし、自由に発言案を考えるとところからしていただくと、よりワークショップ内容の幅が広がったかと思います。
	mock intervention に関しては、breakout セッションとして、少人数のグループに分けて開催することにより学びをより一層深めることができるのではないかと思います。
	Mockup セッションでは、ブレイクアウトルームを活用して、参加者同士の意見交換の機会を設けることで、より一層「参加型」のワークショップになるように感じました。
	オンライン参加で運営が難しい点もれませんが、Charlie さんのご発言にもありましたが、「交渉は得た知識をもとに実践が大事」とのことでしたので、この部分のワークショップをブレイクアウトセッション等でいくつかの班に分かれて実践してみたらもっと実感できたかなと思いました。
	intervention の演習について、ブレイクアウトルームを作って選択した議題ごとに分け、全員 3min バージョンと 2min バージョンの両方を経験できるなどにしてもよかったかと思いました
	最後の知的財産権のセッションは事前知識不足で少し消化不良の感でした。保健のバックグラウンドでない人向けに課題図書など事前課題を出してもらえると理解が深まったかもしれません。また、mocked session もとても良い経験になったのですが、抑揚やポーズ、目線、動きなど「気をつけるべきポイント」を事前に示していただいて、それを知識として知ったうえでの練習にしてもいいのかとも思いました。また、総括のコメントも有益でしたが、可能であれば、個別のフィードバック(簡単なフィードバックでいいので)があると尚よいと思いま
	1. Mocked up intervention (role play exercise)の情報が 1 週間前くらいにいただけたらよかったです。また、日本政府の対処方針のみに従わないといけないと理解していたので、例えば架空の non-State Actor として架空のシナリオでも (注: 課題や問題点は過去のリアルな資料と現実に即し) 大丈夫なように事前ガイダン

	<p>スをいただければ、各参加者からの発言内容がよりクリエイティブになったと思います。</p> <p>2. 発言や質問する参加者に偏りがあったのは、オンライン形式であるゆえで仕方ないことだと思いますが、他の参加者の方々も実は発言したかったがしそびれていたのでは、と思いました。</p>
	<p><b>Video lecture</b> は時差を超える取り組みとしても有意義でしたが、セッションを見るのに精いっぱい、質問を考えチャットに記載する時間として不足、他の参加者の方の質問を見る時間も不足、という点がございました。</p>
	<p>1 日目はプレゼンテーションもあり参加型だからより理解が進みました。2 日目のお昼から聞く講義がとても長く多かったので、自分の英語力のせいもあり、理解力が悪く、少々消化不良になってしまいました。1 日目のように、もう少し参加したりインタラクティブにできる何かがあったら良かったのかもしれないと思いました。</p>
	<p>いくつかのレクチャーがビデオ講義であったことに当初やや驚きましたが、質問やディスカッションに貴重な時間を割けるので、非常によかったとおもいました。ただ、既にビデオ講義だと分かっているのであれば、事前に(1 週間前など)にリンクを配布していただけたら、さらによかったかなと思います。事前に見る事ができていれば、自分のペースで巻き戻したり止めたりしながらじっくりと見れるし、質問も整理できるので。今回は与えられた時間いっぱいのビデオでしたので、止めてメモを取りながら拝聴していたら、最後まで見終わる前にディスカッションが始まってしまい焦りました。</p>
	<p><b>As pointed out at the end, a group-work session would make the WS even more attractive in the future.</b></p>
	<p>字幕機能があると大変助かります。</p>
	<p>1 日目午前のセッションで、休憩の後、中谷先生のプレゼンで音が聞こえませんでした(よって、上のアンケートでも不参加としています)。あと、坂本先生のプレゼンも同様に、資料がみえず音声も聞こえず、みなさんが聞いている映像だけが流れていました。いずれも、その後の QA になったら音が聞こえるようになりました。私と同じ問題が、2 日目の里見さんのプレゼンでも発生したのではないかと思います。ぜひ、原因を解明して、再発防止に取り組んでもらいたいと思います。</p>

表 6：事前事後能力検査

Item	Scale	Pre-test		Post-test		
		n=24	(%)	n=21	(%)	
Individual's belief	1. I know exactly where to look to find conference documents for World Health Organization governing body meetings.	Strongly Agree or	7	(29.2)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	12	(50.0)	0	(0.0)
		Neutral	5	(20.8)	2	(8.3)
	2. I know how national positions are formed and how intervention statements for World Health Assembly agendas are drafted within my government.	Strongly Agree or	2	(8.3)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	16	(66.7)	0	(0.00)
		Neutral	6	(25.0)	2	(8.3)
	3. I know what to do and not to do in delivering interventions.	Strongly Agree or	1	(4.2)	21	(100.0)
		Strongly Disagree or	22	(91.7)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)
Individual's knowledge	1. Interventions should focus on individual country context. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	6	(25.0)	3	(14.3)
		Strongly Disagree or	15	(62.5)	16	(76.2)
		Neutral	3	(12.5)	2	(8.3)
	2. Interventions are delivered in the alphabetical order of the countries speaking. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	5	(20.8)	3	(14.3)
		Strongly Disagree or	12	(50.0)	15	(71.4)
		Neutral	7	(29.2)	3	(12.5)
	3. The purpose of interventions is to express country stance (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	20	(83.3)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	2	(8.3)	2	(9.5)
		Neutral	2	(8.3)	0	(0.0)
	4. Intervention content should be concise and spoken slowly to allow time for interpreters to interpret in the six official UN languages. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	22	(91.7)	20	(95.2)
		Strongly Disagree or	1	(4.2)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	1	(4.2)
	5. Interventions should not single out or attack a particular country and should be delivered in a diplomatic manner. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	23	(95.8)	20	(95.2)
		Strongly Disagree or	0	(0.0)	1	(4.8)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)
	6. You should continue to deliver your message in full even if you go over the time allotted. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	0	(0.0)	1	(4.8)
		Strongly Disagree or	21	(87.5)	20	(95.2)
		Neutral	3	(12.5)	0	(0.0)
	7. The classic structure of an intervention starts with thanking the Chair, stating the country stance, providing rationale, and closing by thanking the chair. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	22	(91.7)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	0	(0.0)	0	(0.0)
		Neutral	2	(8.3)	2	(8.3)
	8. Negotiations not only take place at the meetings but also offstage before and during the meetings. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	20	(83.3)	21	(100.0)
		Strongly Disagree or	3	(12.5)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)

事前検査回答率：72.7%

事後検査回答率：63.6%

## 参考資料

## Global Health Diplomacy Workshop (2020)

### 概要 Course Overview

#### <趣旨>

令和 2 年度厚生労働科学研究費「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究 (20B A 1002)」において、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や日本及び各国政府の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台上で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助として本ワークショップを企画、実施する。

#### <対象>

国際的機関の意思決定会合（governing body meeting）に参加予定の者で、国際会議経験に乏しい官民の若手～中堅実務者を対象にする。

所属先：厚労省、外務省、JICA、NCGM、大学、シンクタンク・NGO など

人数：参加者 30 名とオブザーバー 20 名（推薦ベース）

#### <Purpose>

In the 2020 Ministry of Health, Labour and Welfare's Health and Labour Sciences Research Grant "Study for the Establishment of Strategic and Effective Intervention Methodologies for International Conferences (20BA1002)," the research team aims to analyze the history behind current issues in global health, examine global health diplomacy trends of Japan and other nations, establish strategic intervention methodologies for Japan, and develop an effective global health diplomacy educational program. In addition, the research team aims to work with the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Japan International Cooperation Agency (JICA), and other global health policy organizations and research institutions overseas to develop more realistic and effective interventions, as well as educational materials and training programs. Amidst the geopolitical changes caused by the global pandemic of a novel coronavirus disease (COVID-19), there is an urgent need to cultivate human resources who can advocate for global health at the global level in harmony with international and national interests. This workshop was designed and will be implemented to help achieve such goals.

#### <Target audience>

The workshop is open to young and mid-level public and private sector practitioners who are planning to participate in a governing body meeting of international organizations and have little experience in such international meetings.

Possible affiliations include MHLW, MOFA, JICA,

NCGM, universities, think tanks, NGOs, etc.

<目的・目標>

世界保健総会をはじめとする国際会議にて、国際保健課題の議論に戦略的に介入して日本の立場を有効的に主張できる人材を育成するため、以下の教育目標を設定する。

- 1 国際的機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- 2 会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- 3 国際会議の標準的なルールを理解する。
- 4 国際会議で有効な発言をすることができる。
- 5 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる技法を習得する。
- 6 国際益と国益を調和させる姿勢を滋養する。
- 7 国際会議の暗黙知を共有する

Expected number of participants: 30 participants and 20 observers (both on a recommendation basis)

<Objectives and Goals>

In order to develop human resources who can strategically intervene in the discussion of global health issues and effectively advocate Japan's position at the World Health Assembly and other international conferences, the following educational objectives have been established

1. Understand governance in international organizations (UN, UN specialized agencies, partnerships).
2. Understand the pre-conference national coordination and conference preparation process.
3. Understand the standard rules for international meetings.
4. To be able to speak effectively at international meetings.
5. Acquire techniques for reflecting one's own arguments in international conference decision-making
6. Nourish an attitude for harmonizing international and national interests
7. Understand the unspoken rules/tactics international conferences

<日時>

2020年12月12日(土)・13日(日)

<会場>

オンライン(Zoom)参加  
事務局と日本人講師は旅工房スタジオから参加

<様式>

オンライン形式によるワークショップ (国内リソースパーソンは会場に参集またはオンライン参加。外国人リソースパーソンは原則オンラインによりオンデマンド+リアルタイム参加\*)

注：\*リアルタイム参加が原則だが、可能な限り録画ビデオを送っていただきオンデマンド教材として用いる。当日、接続が悪い場合は録画ビデオ放映。ベストなのは、冒頭講師挨拶、ビデオ供覧、供覧中チャットで寄せられる質問に回答、ビデオ終了後ライブでQ&A)

<言語>

日本人講師のみのコマは日本語で、外国人講師が関与する部分は英語で実施。(同時通訳なし)

<Date and time>

Saturday, December 12 and Sunday, December 13, 2020

<Venue>

Online (Zoom), with the secretariat and some Japanese resource persons participating from a meeting room the Tabikobo office.

<Style>

Online workshop

Domestic resource persons will join either from the venue or online. Overseas resource persons will participate online in principle, with on-demand and in real time\*

Note: \*In principle, real-time participation is required, but if possible, a video recording for the use as an on-demand teaching aid should be presented to the secretariat ahead of time. If there is a poor connection on the day, we will broadcast the video on demand. (The best thing to do is to give a speech at the beginning of the session, watch the video, answer questions from the chat room, and do a live Q&A after the video.)

<Language>

Sessions with only Japanese instructors will be conducted in Japanese, and sessions involving overseas instructors will be conducted in English. (Simultaneous interpretation will not be provided.)

## <講義内容>

1. 国際保健概要
  - 国際保健外交：日本・タイの事例
2. 決議作成プロセスと有効な介入  
(intervention, 発言方法)
  - 決議文書の読み方
  - 有効な介入発言の準備の仕方
    - 日本・タイの事例
  - 介入発言 (intervention) の練習  
(資料はワークショップ開催前にメールで配布し、参加者には事前に介入文 (intervention) を準備・作成してきてもらい、ワークショップ初日に発言を行う。)
3. 交渉におけるイニシアチブの取り方
  - 過去の交渉事例紹介・経験談の共有

## <研究班としての活動>

- 1 事前・事後評価(アンケート)によるスキルの習得状況
- 2 効果的な会議参加者に求められるスキルの同定
- 3 研修カリキュラムの形成と評価
- 4 今回用いた資料を基にした教材開発

## <Workshop Contents>

1. Overview on global health diplomacy
  - The Case of Japan and Thailand
2. Resolution-making process and effective interventions (interventions, speaking methods)
  - How to read the resolution documents
  - How to prepare for an effective intervention
    - Examples from Japan and Thailand
  - Practicing Intervention  
(Materials will be distributed via email prior to the workshop and participants will be asked to prepare an intervention statement beforehand and to deliver it on the first day of the workshop).
3. How to take the initiative in negotiations
  - Learning from past negotiation cases and personal experiences of resource persons

## Global Health Diplomacy Workshop (2020) Course Schedule Overview

| Day 1       |  |   |  |
|-------------|--|---|--|
| Time        | Session Title  | Session Content   | Facilitator  |
| 8:50-9:00   | <b>Sign-in</b>   | Registration and housekeeping matters to be explained   | Ms. Ishizuka   |
| 9:00-9:30   | <b>Self-introduction</b><br><br><b>Course objectives</b>   | <b>Self-Introduction</b><br>All resource persons and participants say a word after being called upon (20 min)<br><b>Overview of the workshop</b><br>Prof Iso (10 min)   | Ms. Ishizuka   |
| 9:30-10:20  | <b>Overview of global health diplomacy</b> (lecture)   | <b>Thailand's history on and investments in global health</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Suwit Wibulpolprasert &amp; Dr. Attaya Limwattanayingyong 15 min</li> </ul> <b>Using global health platforms and diplomacy to drive national interests</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Prof. Yasushi Katsuma (15 min)</li> </ul> Q&A: Dr. Suwit, Dr. Attaya, & Prof. Katsuma (20 min) | Prof. Iso (Introduce the speakers and facilitate Q&A)<br><br>(with an Assistant to monitor the comments submitted through the Zoom's chat function: Chat monitoring Assistant) |
| Break       | 20 min   |   |  |
| 10:40-12:00 | <b>World Health Organization and its role in global health governance</b> (lecture)<br><Session in Japanese> | <b>Structure, functions, and governing bodies</b><br><b>Navigating the Document systems</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Prof. Hiroki Nakatani (60 min)</li> </ul> Q&A: Prof. Katsuma and Prof. Nakatani (20 min)   | Dr. Akashi (Introduce the speaker and facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant)   |
| LUNCH       | 60 min   |   |  |
| 13:00-14:15 | <b>Preparing for WHA and drafting of interventions</b> (lecture)   | <b>Forming national positions (Thai and Japanese cases)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Warisa Panichkriangkrai (20 min)</li> <li>• Dr. Yui Sekitani, (20 min)</li> </ul> <b>Making interventions: dos and don'ts</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Haruka Sakamoto (20 min)</li> </ul> Q&A: Dr. Warisa, Dr. Sekitani, Dr. Sakamoto (15 min)                                  | Dr. Umeda (Introduce the speakers and facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant)   |
| Break       | 30 min   | Prepare for mock up session   |  |
| 14:45-16:45 | <b>Mocked up intervention</b> (role play exercise)   | <b>Delivering interventions at WHA</b> (participants deliver an intervention as if they are a representative from Japan or non-state actor)   | Prof. Nakatani (Chair the mock meeting, facilitate feedback by resource persons)   |

|              |  |  |   |
|--------------|--|--|---|
|              |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Intervention to be delivered for 3 minutes per participant (3 min x all or selected participants)</li> <li>• Feedback by resource persons (30 min)</li> <li>• One theme (agenda item) to be selected and shared with participants ahead of time.</li> <li>• Participants will prepare statements representing their own country or non-state actors.</li> <li>• Mock Japanese national stance will be shared with participants</li> </ul> | <p>(Chat monitoring Assistant)</p> <p>(with an Assistant to sort the order of speakers. The speakers will raise hands using the function on Zoom)</p> <p>(with an Assistant to monitor the time of each intervention)</p> |
| 16:45-17:00  | <b>Recap of the day</b><br><Session in Japanese>   | <p>Q&amp;A: Prof. Iso and Prof. Nakatani (10 min)</p> <p>Selection of a participant to provide a recap on Day 2. (5 min)</p>   | <p>Dr. Sakamoto &amp; Ms. Ishizuka (facilitate Q&amp;A)<br/>(Chat monitoring Assistant)</p> <p>Prof. Iso</p>  |
| <b>Day 2</b> |  |  |   |
| <b>Time</b>  | <b>Session Title</b>   | <b>Session Content</b>   | <b>Facilitator</b>  |
| 8:50-9:00    | Recap of Day 1   | One lucky participant to provide a summary of what they learned in Day 1   | Ms. Ishizuka  |
| 9:00-10:00   | <b>Introduction to negotiations</b> (lecture)  | <p><b>Negotiation in global health: the principles</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (50 min)</li> </ul> <p>Q&amp;A: Mr. Charlie (10 min)</p>  | <p>Ms. Ishizuka (Introduce the speakers and facilitate Q&amp;A)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>  |
| Break        | 30 min   |  |   |
| 10:30-12:00  | <b>Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 1</b> (lecture)<br><br><Session in Japanese> | <p><b>Negotiations behind a resolution: Universal Health Coverage</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Satoshi Ezoe (80 min)</li> </ul> <p>Q&amp;A: Dr. Ezoe (10 min)</p>  | <p>Dr. Umeda (Introduce the speakers and facilitate Q&amp;A)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>   |
| LUNCH        | 60 min   |  |   |
| 13:00-14:00  | <b>Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 2</b> (video lecture)                        | <p><b>Negotiations behind drafting of a resolution: Access to medicines</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Nilo Dytz Filho (60 min)</li> </ul>   | <p>Prof. Natakani (Introduce the speakers)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>   |
| 14:00-15:00  | <b>WHO Partnerships, Networks and Alliances: Challenges and Opportunities</b>                                  | <p><b>Navigating the politics and governance of a multilateral agency</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Issa Matta (60 min)</li> </ul>  | <p>Prof. Natakani (Introduce the speakers)</p>  |

|             |   |   |  |
|-------------|---|---|--|
|             | (video lecture)                         |   | (Chat monitoring Assistant)  |
| Break       | 30 min                                  |   |  |
| 15:30-16:30 | <b>Interactive Q&amp;A</b>              | Q&A: Mr. Filho and Mr. Matta (60 min)   | Prof. Natakani (facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant) |
| 16:30-17:00 | <b>Wrap up</b><br><Session in Japanese> | Course summary and comments by Prof Iso and Prof Nakatani<br><br>Feedback on the course from participants | Prof. Iso  |

## Resource persons list

- Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)  
Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand
- Dr. Attaya Limwattanayingyong  
Ministry of Public Health, Thailand
- Dr. Warisa Panichkriangkrai (タイ)  
International Health Policy Program (IHPP Thailand), Thailand
- Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)  
Ministry of Foreign Affairs, Thailand
- Mr. Nilo Dytz Filho (スイス)  
Minister Counsellor, Permanent Mission of Brazil, Geneva
- Mr. Issa Matta (スイス)  
Attorney, WHO Office of the Legal Counsel
- Dr. Satoshi Ezo (日本)  
Director, Global Health Policy Division  
Ministry of Foreign Affairs, Japan
- Dr. Yui Sekitani, (日本)  
Deputy Director  
International Affairs Division  
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan
- Prof. Hiroyasu Iso 磯博康(日本)  
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)  
国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) センター長
- Prof. Hiroki Nakatani 中谷比呂樹 (日本)  
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM  
NCGM グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター長
- Prof. Yaushi Katsuma 勝間靖 (日本)  
Director, Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科研究科長
- Dr. Tamami Umeda 梅田珠実 (日本)  
Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 局長
- Dr. Hidechika Akashi 明石秀親 (日本)  
Director, Department of Health Planning and Management, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 運営企画部 部長
- Dr. Haruka Sakamoto 坂元晴香 (日本)  
Project Assistant Professor, Department of Health Policy and Management, School of Medicine, Keio University  
慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 特任助教
- Ms. Aya Ishizuka 石塚彩 (日本)  
Specially Appointed Researcher, IGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 特任研究員

Others:

NCGM Secretariat: 2-3 persons a day to assist with the operation during the workshop.

厚生労働科学研究費補助金  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
分担研究報告書

Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021)

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| 研究分担者 | 磯 博康   | 国立国際医療研究センター<br>グローバルヘルス政策研究センター センター長 |
|       | 中谷 比呂樹 | 国立国際医療研究センター<br>グローバルヘルス人材戦略センター センター長 |
|       | 梅田 珠実  | 国立国際医療研究センター<br>グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員 |
|       | 明石 秀親  | 国立国際医療研究センター 国際医療協力局<br>運営企画部長         |
|       | 坂元 晴香  | 慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教                  |
|       | 勝間 靖   | 国立国際医療研究センター<br>グローバルヘルス政策研究センター 研究科長  |
|       | 細澤 麻里子 | 国立国際医療研究センター<br>グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員 |
|       | 研究協力者  | 齋藤 英子                                  |

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

昨年より繰越した対面型ワークショップでは、国際会議において効果的な介入を行うための交渉術や発言方法に関する実践的スキルを取得することを目的に開催された。本ワークショップのために開発された事例教材は、現実の世界保健機関執行理事会および作業部会の決議案を模して作成されたため、今後世界保健総会等で活用しうる実践的な内容となった。その結果、大半の参加者からワークショップの有用性について好評を博し、今後同様のワークショップを開催することへの期待が多く寄せられた。

## A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題および日本を含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入方法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルスの世界的流行により、ウィズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化の中で、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

## B. 研究方法

### 1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

繰り越し年度分では、令和2年度のオンライン版グローバルヘルス外交ワークショップに参加した13名ほどの厚生労働省、

外務省、アカデミア、民間企業、非政府団体(NGO)職員等グローバルヘルスに携わる若手から中堅職員とする。

ワークショップは以下6点を目標に、国立国際医療研究センターおよび研究班分担者から講師を招いて、交渉、効果的な介入に関する演習プログラムを構成する。

- (1) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (2) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (3) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (4) 国際会議の意思決定に自らの主張を反省させる技法を習得する。
- (5) 国際益と国益を調和させる姿勢を涵養する。
- (6) 国際会議の暗黙知を共有する。

### 2. ワークショップの評価

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得る。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図る。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外であった。

## C. 研究結果

令和3年10月30日～31日の二日間にわたり、対面形式でワークショップを開催した(プログラム詳細は参考資料「Global

Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021): Course Schedule Overview」を参照)。参加者は13名であった。本ワークショップは、2020年度に開催されたオンラインワークショップのフォローアップという位置づけであり、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に実現できなかった対面でのロールプレイ演習に特化したものである。

本ワークショップでは、世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬WHA方式で介入の演習を実施した。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。参加者は、数名ずつのチームに分かれ、各国の代表団(日本、米国、ドイツ、インドの4か国)として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査(表1~2, 講師回答を含む)では、大半の参加者から「難しかった」「普通」といった回答が得られ、本ワークショップ演習の手応えを感じていたようであった。また参加度(表3)についても、ほとんどの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた気づきについてのコメントでは、表現の仕方や事前資料の読み

込み、対処方針の重要性といった実務的な内容に加え、背景や国益等各国のスタンスの真の意味での理解、課題についての専門的な理解、産業界との連携、国情の事前精査、他国との関係性を作ることなど、より包括的かつ専門的な気づきが得られたとの回答が多く見られた。改善点(表5)では、ワークショップ中に資料読み込みに充てる時間が限られており、事前資料配布を望む声が多く見られたため、次回以降対応していく予定である。

#### D. 考察

本ワークショップの参加者は、若手から中堅職員のうち、国際保健分野の知識または実務経験のある人かつ2020年度のグローバルヘルス外交ワークショップ参加経験者のみに限定した。今回の質疑応答は日本語で行ったため、参加者の英語レベルのばらつきにかかわらず、活発な意見交換が行われた。

参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できたという意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年度実施していくことが望ましい。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Follow-up

Workshop (2021): Course Schedule

Overview (ワークショップ概要)

表1. 参加者属性 (任意回答アンケート)

|                                       |                 | Number | Percent |
|---------------------------------------|-----------------|--------|---------|
| Age range                             | 20-29           | 3      | 18.8    |
|                                       | 30-39           | 8      | 50.0    |
|                                       | 40-49           | 2      | 12.5    |
|                                       | 50-59           | 0      | 0.0     |
|                                       | 60 and over     | 3      | 8.8     |
| Sex                                   | Male            | 8      | 50.0    |
|                                       | Female          | 8      | 50.0    |
| Experience in Global Health Diplomacy | With experience | 7      | 43.8    |
|                                       | No experience   | 9      | 56.3    |

表2. 各セッション難易度 (%)

|                                  | Number of Respondents* | Very Difficult | Difficult | Medium | Easy | Very Easy |
|----------------------------------|------------------------|----------------|-----------|--------|------|-----------|
| Team deliberation                | 16                     | 0.0            | 25.0      | 11.0   | 1.0  | 0.0       |
| Bilateral meeting roleplay       | 15                     | 6.7            | 60.0      | 33.0   | 0.0  | 0.0       |
| Mock-up Session (Plenary #1, #2) | 15                     | 13.3           | 33.3      | 46.7   | 0.0  | 0.0       |
| Mock-up Session (Working Group)  | 15                     | 6.7            | 66.7      | 20.0   | 6.7  | 0.0       |

\*Team deliberation のみの参加者 1 名

表3. 各セッション参加度 (%)

|                                     | Number of Respondents | Weakly participated | Somewhat participated | Actively participated |
|-------------------------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------|
| Team deliberation                   | 16.0                  | 0.0                 | 43.8                  | 56.3                  |
| Bilateral meeting<br>roleplay       | 15.0                  | 6.7                 | 40.0                  | 53.3                  |
| Mock-up Session<br>(Plenary #1, #2) | 15.0                  | 6.7                 | 46.7                  | 46.7                  |
| Mock-up Session<br>(Working Group)  | 15.0                  | 6.7                 | 40.0                  | 53.3                  |

\*Team deliberation のみの参加者 1 名

表4. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから

得られた気づきについて（自由回答）

| No | コメント(自由回答)   |
|----|--|
| 1  | 背景や国益等各国のスタンスの(真の意味での)理解、課題について専門的な理解(砂糖全てが身体に悪いわけではない点)   |
| 2  | 事前の対処法新案の精査(資料の重要性)、事前の各参加国の興味あるポイントに関するポイント、ビデオをみた時に配られていたサマリーと実際の発言との分析(伝わってる部分と伝え方の工夫)                                  |
| 3  | 表現の仕方を含むケーススタディがあると便利ではないか?  |
| 4  | 実践を見学する機会、実践的なシミュレーションを行う機会、資料精読の方法の e-learning など   |
| 5  | 資料精査の必要性、国内外の関連情報の把握、外交的な言語や表現の習得  |
| 6  | 本国との基本方針の擦り合わせ、関係省庁との連携、産業界との連携  |
| 7  | 資料精査と自国の規制の理解を踏まえて、事前に発言内容をよく準備することが重要だと思った。また、他の国がどういった提案をしてきたときにどこまで妥協できるか決めておく必要があると思った。                                |
| 8  | Importance of the related basic knowledge and background of the resolution.<br>Bilateral meeting is also very informative. |
| 9  | 資料配付(事務局補足:事前)   |
| 10 | 事前の調査と各国の出方を予想し、それに応じた対応を熟考しておくこと  |
| 11 | 事前準備の重要性、経験や回数を積んで慣れること、他国との関係性を作ること   |
| 12 | 自分たちのポジションに柔軟性を持つこと、他国の interest や国情の事前精査  |
| 13 | 場数からくる経験   |
| 14 | 事前にどこまで妥協できるかを調整しておく、事前に他国の主張を把握しお互いの落としどころを探しておく、いかにみんなが納得できる理由で説得できるか。   |
| 15 | 自国の状況の理解、事前の多国間の調整   |
| 16 | Working Group における駆け引き(譲れるところと譲れないところの重みづけなど)の重要性  |

表5. ワークショップ改善点（自由回答）

| No | コメント(自由回答)  |
|----|---|
| 1  | 予めチーム配分をお知らせいただき、関連資料を送付して頂ければ事前準備が出来てワークショップもスムーズだったかもしれません。   |
| 2  | 初めての方同士なのでアイスブレイクは大事だが、時間が限られているので、アイスブレイクを参加者が到着した時にファシリテーターが既にアイスブレイクや本日の流れなどをイントロするように warm up していくと良いのではないかと感じた。                    |
| 3  | 事前にビデオで学習ができると良い。   |
| 4  | バイを効果的にするために事前に対象国の情報を得られると良い、また参加者同士が語り合える場があると繋がりができてよい。  |
| 5  | 色々なサポートスタッフからアドバイスをうけることができたより良かった。議論用語やフレーズ集や外交プロトコル一覧が欲しいと思いました。  |
| 6  | 半日を二日ではなく一日に集中すると交渉のタフさも体感できるように思います。NSA との交渉や会合での interventions があると臨場感が増すと思います。Capitols との折衝も経験できると delegation の立場がより具体的に体感できると感じました。 |
| 7  | 検討時間が少なかったのも、資料は事前に配布があると準備がしやすかったかもしれません。  |
| 8  | 内容の割に時間が短い、Agenda Item (OP1-17)は事前に配布して欲しかった。   |
| 9  | コロナ対策なので仕方ないと思いますが、飲食できないのは大変でした。   |
| 10 | 内容はとても勉強になった、限られた時間ではあったがもう少し余裕を持った進行だとありがたい。   |
| 11 | もっと時間が欲しい。できれば合宿形式で。  |
| 12 | 事前に draft resolution が手元にあるとより準備できてありがたいです。   |
| 13 | 意見が割れたときの発言の仕方(表現やフレーズ例)があると、実際のロールプレイで実践できそうです。  |
| 14 | マイクは各国1本ずつあっても良いと思いました。   |

## 參考資料

## Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021): Course Schedule Overview

| Day 1, Saturday, 30 October 2021 |  |   |
|----------------------------------|--|---|
| Time                             | Session Title  | Speakers  |
| 12:30                            | Sign-in  |   |
| 13:00-13:30                      | <b>Course objectives/Orientation/Ice-break</b>   | Moderator: Dr. Umeda  |
| 13:30-15:40                      | <b>Team deliberation (13:30-14:30)</b><br><b>Bilateral meeting role play 15min*3 (14:30-15:15)</b><br><b>Team deliberation (15:15-15:40)</b> | Facilitators and Resource Persons                               |
| 15:40-16:00                      | Break  |   |
| 16:00-16:40                      | <b>Mock-up Session (Plenary #1)</b>  | Chair: Prof. Nakatani<br>Director-General:<br>Prof. Miyagishima |
| 16:40-17:00                      | <b>Team deliberation</b>   |   |
| Day 2, Sunday, 31 October 2021   |  |   |
| Time                             | Session Title  | Speakers  |
| 12:30                            | Sign-in  |   |
| 13:00-13:20                      | <b>Team deliberation</b>   | Facilitators & Resource Persons                                 |
| 13:20-15:20                      | <b>Mock-up Session (Working Group)</b>   | Chair: Prof. Sakamoto   |
| 15:20-15:45                      | <b>Break</b>   |   |
| 15:45-16:30                      | <b>Mock-up Session (Plenary #2)</b>  | Chair: Prof. Nakatani<br>Director-General:<br>Prof. Miyagishima |
| 16:30-17:00                      | <b>Wrap up</b>   | Prof. Iso   |

## 別添：List of Resource Persons

- Prof. Hiroyasu Iso, Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)
- Prof. Hiroki Nakatani, Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM
- Prof. Kazuaki Miyagishima, Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University
- Dr. Tamami Umeda, Visiting Researcher, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), NCGM
- Dr. Haruka Sakamoto, Project Assistant Professor, Department of Health Policy and Management, School of Medicine, Keio University
- Dr. Kenichi Komada, Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM
- Dr. Mariko Hosozawa, Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM
- Dr. Eiko Saito, Visiting Researcher, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), NCGM
- iGHP/NCGM Secretariat

## 研究成果の刊行に関する一覧

該当なし

その他

該当なし

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター長  
(氏名・フリガナ) 磯 博康 イソ ヒロヤス

4. 倫理審査の状況

|   | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入(※1)       |        |                          |
|---|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|   | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査(※2)                  |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針                   | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                        | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)                | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針      | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名<br>称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 12月 20日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス人材戦略センター  
グローバルヘルス人材戦略センター長  
(氏名・フリガナ) 中谷 比呂樹 ナカタニ ヒロキ

4. 倫理審査の状況

|                                    | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                    | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針              | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                   | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)          | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )   | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 12月 20日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 運営企画部長  
(氏名・フリガナ) 明石 秀親 アカシ ヒデチカ

#### 4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

#### 6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター

客員研究員

(氏名・フリガナ) 梅田 珠実 ウメダ タマミ

4. 倫理審査の状況

|   | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|---|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|   | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針                   | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                        | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針      | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名<br>称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター

研究科長

(氏名・フリガナ) 勝間 靖 カツマ ヤスシ

## 4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

## 6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏 印

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター  
主任研究員  
(氏名・フリガナ) 細澤 麻里子 ホソザワ マリコ

## 4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

## 6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 東京女子医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 丸 義朗

次の職員の令和 3 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業

2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・准教授

(氏名・フリガナ) 坂元 晴香・サカモト ハルカ

## 4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査(※2)                  |
| 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)       | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

## 6. 利益相反の管理

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 : )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関 : ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 : )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容 : )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。